

# 四半期報告書

(第52期第1四半期)

日本システム技術株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
3 【経営上の重要な契約等】 .....	5
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	7
第4 【経理の状況】 .....	8
1 【四半期連結財務諸表】 .....	9
2 【その他】 .....	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	20

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 2023年8月14日

**【四半期会計期間】** 第52期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

**【会社名】** 日本システム技術株式会社

**【英訳名】** Japan System Techniques Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 平林 武昭

**【本店の所在の場所】** 大阪市北区中之島二丁目3番18号

**【電話番号】** 06(4560)1000(代)

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役執行役員 大門 紀章

**【最寄りの連絡場所】** 大阪市北区中之島二丁目3番18号

**【電話番号】** 06(4560)1000(代)

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役執行役員 大門 紀章

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第1四半期連結 累計期間	第52期 第1四半期連結 累計期間	第51期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	5,119,276	5,640,211	23,519,516
経常利益 (千円)	289,963	134,440	2,450,148
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	223,888	61,902	1,772,210
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	297,847	89,437	1,868,410
純資産額 (千円)	9,242,258	10,506,539	10,816,240
総資産額 (千円)	16,417,970	18,300,162	17,413,797
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	18.26	5.05	144.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	56.0	57.2	61.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,099,947	2,319,130	1,073,916
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△63,615	△137,577	△541,656
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△265,665	△404,669	△280,816
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	8,272,414	8,573,221	6,793,050

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第47期より「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する当社株式は、1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第1四半期連結累計期間149,200株、当第1四半期連結累計期間149,200株)。
4. 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第51期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### ① 経営成績の状況

当第1四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類5類への移行による段階的な各種制限の緩和により、国内の消費活動が回復基調の動きを見せる一方で、ロシア・ウクライナ情勢を背景とした資源価格の高騰や日米における金融政策、経済状況の違いによる急激な為替変動など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境下、当社グループ(当社及び連結子会社)の業績は、売上高56億40百万円(前年同期比10.2%増)、営業利益1億22百万円(前年同期比53.3%減)、経常利益1億34百万円(前年同期比53.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益61百万円(前年同期比72.4%減)となりました。各事業セグメントにおいては受注残高がそれぞれ前年同期比増で積み上がっている中、同ページ「(報告セグメントに帰属しない一般管理費等)」に記載の通り、主として先行投資による計画的な費用増に伴い当第1四半期として上記の通りの各利益指標となっている状況であり、2024年3月期の連結業績予想達成に向けては堅調に推移しているものと認識しております。

セグメント別の内訳は以下のとおりとなっております。

##### (DX&SI事業)

当事業につきましては、売上高34億57百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益4億82百万円(前年同期比5.8%減)となりました。主な要因は、新規・既存顧客ともに案件引合いの好調により増収となったものの、人件費及び外注費の単価増により減益となったことによるものであります。

##### (パッケージ事業)

当事業につきましては、売上高9億60百万円(前年同期比11.0%増)、営業利益1億47百万円(前年同期比11.4%増)となりました。主な要因は、金融機関向け情報システム「BankNeo」におけるPP(プログラム・プロダクト)販売が前年をやや下回ったものの、戦略的大学経営システム「GAKUEN RX」「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT RX」(以下、「GAKUENシリーズ」という。)におけるPP(プログラム・プロダクト)販売及び導入支援サービス等がそれぞれ増収となったことによるものであります。

##### (医療ビッグデータ事業)

当事業につきましては、売上高4億15百万円(前年同期比30.0%増)、営業利益15百万円(前年同期比52.0%増)となりました。主な要因は、分析サービス及び利活用サービス等の高収益ビジネスが増収となったことによるものであります。

##### (グローバル事業)

当事業につきましては、売上高8億6百万円(前年同期比18.4%増)、営業利益1億4百万円(前年同期比12.6%減)となりました。主な要因は、マレーシアにおけるSAP導入サポート案件が好調だったものの、タイにおけるSI開発案件やERPパッケージ販売及び導入コンサル等が減収となったことによるものであります。

##### (報告セグメントに帰属しない一般管理費等)

全社費用につきましては、一般管理費6億27百万円(前年同期比22.5%増)となりました。主な要因は、教育研修及び採用の強化に伴う諸費用の増加等、当第1四半期特有の事象によるもののほか、要員増強に伴う人件費の増加等によるものであります。

## ②財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況につきましては、以下のとおりであります。

### (資産)

流動資産の残高は148億17百万円(前連結会計年度末比6億29百万円増)となりました。これは主として売掛金の回収及び契約負債の増加による現金及び預金の増加によるものであります。また、固定資産の残高は34億83百万円(同2億56百万円増)となりました。

### (負債)

流動負債の残高は59億14百万円(同12億10百万円増)となりました。これは主としてその他に含まれる未払費用及び契約負債の増加並びに賞与引当金及び未払法人税等の減少によるものであります。また、固定負債の残高は18億78百万円(同14百万円減)となりました。

### (純資産)

純資産の残高は105億6百万円(同3億9百万円減)となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)の状況は、期首の資金残高67億93百万円より17億80百万円増加し、85億73百万円となりました。

なお、各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、23億19百万円の収入(前第1四半期連結累計期間は20億99百万円の収入)となりました。前年同四半期連結累計期間に比べキャッシュ・フローが2億19百万円増加した要因は、売上債権の回収による収入の増加及び未払金を主としたその他債務の支払額の減少によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億37百万円の支出(同63百万円の支出)となりました。前年同四半期連結累計期間に比べキャッシュ・フローが73百万円減少した要因は、主として差入保証金の差入による支出及び貸付けによる支出の増加並びに投資有価証券の取得による支出の減少によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、4億4百万円の支出(同2億65百万円の支出)となりました。前年同四半期連結累計期間に比べキャッシュ・フローが1億39百万円減少した要因は、主として配当金の支払額の増加によるものであります。

## (3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「第2 3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

## (4) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

## (6) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第1四半期連結会計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は40百万円であります。なお、同期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(8) 経営成績に重要な影響を与える要因

「第2 1. 事業等のリスク」に記載のとおり、当第1四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,418,460	12,418,460	東京証券取引所 プライム市場	権利内容に何ら限定の ない当社における標準 となる株式であり、単 元株式数は100株であ ります。
計	12,418,460	12,418,460	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年4月1日～ 2023年3月31日 (注)	6,209,230	12,418,460	—	1,535,409	—	1,497,047
2023年4月1日～ 2023年6月30日	—	12,418,460	—	1,535,409	—	1,497,047

(注) 2022年10月1日付で1株を2株に株式分割しました。

これにより、株式数は6,209,230株増加し、発行済株式数は12,418,460株となっております。

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 5,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,409,400	124,094	—
単元未満株式	普通株式 4,060	—	—
発行済株式総数	12,418,460	—	—
総株主の議決権	—	124,094	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式給付信託(BBT)が所有する当社株式149,200株(議決権1,492個)が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式68株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本システム技術 株式会社	大阪市北区中之島二丁目 3番18号	5,000	—	5,000	0.04
計	—	5,000	—	5,000	0.04

(注) 1. 株式給付信託(BBT)が所有する当社株式149,200株を、四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。

2. 上記のほか、当社所有の単元未満自己株式68株があります。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,206,690	9,002,256
受取手形、売掛金及び契約資産	6,532,385	5,036,460
商品及び製品	172,554	295,716
仕掛品	100,612	106,688
原材料及び貯蔵品	8,239	6,047
その他	174,586	374,436
貸倒引当金	△7,924	△4,463
流動資産合計	14,187,144	14,817,140
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	958,056	959,889
減価償却累計額	△589,641	△609,208
建物及び構築物（純額）	368,415	350,681
土地	142,361	142,361
その他	607,152	621,267
減価償却累計額	△485,935	△491,556
その他（純額）	121,216	129,711
有形固定資産合計	631,994	622,753
無形固定資産		
のれん	88,499	83,093
顧客関連資産	71,561	67,190
ソフトウェア	74,913	101,883
その他	7,626	7,626
無形固定資産合計	242,601	259,793
投資その他の資産		
投資有価証券	612,807	640,488
退職給付に係る資産	674,681	675,316
繰延税金資産	539,732	689,170
差入保証金	435,927	518,436
その他	93,485	112,972
貸倒引当金	△4,577	△35,910
投資その他の資産合計	2,352,057	2,600,474
固定資産合計	3,226,652	3,483,022
資産合計	17,413,797	18,300,162

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,495,532	1,078,682
未払法人税等	498,990	258,132
契約負債	354,018	1,433,267
賞与引当金	1,270,424	562,238
役員賞与引当金	110,250	21,015
工事損失引当金	6,801	33,910
その他	967,961	2,527,415
流動負債合計	4,703,978	5,914,662
固定負債		
役員株式給付引当金	141,759	145,668
退職給付に係る負債	1,110,713	1,099,056
繰延税金負債	28,464	25,972
その他	612,640	608,262
固定負債合計	1,893,578	1,878,960
負債合計	6,597,556	7,793,623
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,535,409	1,535,409
資本剰余金	1,702,732	1,702,732
利益剰余金	7,389,420	7,054,094
自己株式	△175,703	△175,861
株主資本合計	10,451,859	10,116,375
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	137,114	155,587
為替換算調整勘定	119,184	129,239
退職給付に係る調整累計額	60,618	57,496
その他の包括利益累計額合計	316,917	342,323
非支配株主持分	47,463	47,840
純資産合計	10,816,240	10,506,539
負債純資産合計	17,413,797	18,300,162

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	5,119,276	5,640,211
売上原価	3,826,933	4,280,524
売上総利益	1,292,342	1,359,686
販売費及び一般管理費	1,030,962	1,237,668
営業利益	261,380	122,018
営業外収益		
受取利息	3,656	8,230
受取配当金	4,401	4,172
受取賃貸料	604	791
為替差益	13,683	7,078
受取保険金	—	14,700
助成金収入	4,231	2,398
その他	3,559	10,828
営業外収益合計	30,137	48,200
営業外費用		
支払利息	172	72
貸倒引当金繰入額	1,011	35,510
その他	369	195
営業外費用合計	1,554	35,777
経常利益	289,963	134,440
税金等調整前四半期純利益	289,963	134,440
法人税等	58,768	71,554
四半期純利益	231,194	62,886
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,305	983
親会社株主に帰属する四半期純利益	223,888	61,902

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	231,194	62,886
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,928	18,473
為替換算調整勘定	67,699	11,200
退職給付に係る調整額	△2,974	△3,121
その他の包括利益合計	66,653	26,551
四半期包括利益	297,847	89,437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	288,131	87,309
非支配株主に係る四半期包括利益	9,716	2,128

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	289,963	134,440
減価償却費	26,906	32,119
ソフトウェア償却費	6,044	6,183
のれん償却額	5,713	5,935
顧客関連資産償却額	4,620	4,799
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△751,675	△708,385
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	4,933	△12,455
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△734	△635
受取利息及び受取配当金	△8,057	△12,402
支払利息	172	72
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	1,399,913	1,497,910
契約負債の増減額 (△は減少)	1,104,121	1,078,813
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△128,579	△127,045
仕入債務の増減額 (△は減少)	△326,413	△417,950
その他	981,150	1,295,333
小計	2,608,080	2,776,733
利息及び配当金の受取額	10,024	12,129
利息の支払額	△174	△73
法人税等の支払額	△517,984	△469,659
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,099,947	2,319,130
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△338,348
定期預金の払戻による収入	—	327,401
有形固定資産の取得による支出	△18,291	△11,530
ソフトウェアの取得による支出	△2,273	△8,763
投資有価証券の取得による支出	△44,009	△302
貸付けによる支出	△673	△38,252
貸付金の回収による収入	2,073	631
差入保証金の回収による収入	1,383	—
差入保証金の差入による支出	△713	△83,100
その他	△1,111	14,686
投資活動によるキャッシュ・フロー	△63,615	△137,577
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△9,047	—
リース債務の返済による支出	△6,467	△5,531
自己株式の取得による支出	△195	△157
配当金の支払額	△248,274	△397,228
非支配株主への配当金の支払額	△1,680	△1,752
財務活動によるキャッシュ・フロー	△265,665	△404,669
現金及び現金同等物に係る換算差額	37,925	3,287
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,808,591	1,780,171
現金及び現金同等物の期首残高	6,463,823	6,793,050
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 8,272,414	※1 8,573,221



## 【注記事項】

(追加情報)

(株式給付信託 (BBT) )

当社は、2018年6月26日開催の第46回定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金制度を廃止し、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリット並びに株価下落のリスクを共に株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値増大に貢献する意識を高めることを目的として、「株式給付信託 (BBT) (=Board Benefit Trust) 」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

### (1)取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託(以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。)を通じて取得され、当社取締役(社外取締役を除きます。以下断りがない限り、同じとします。)に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭(以下、「当社株式等」といいます。)が本信託を通じて給付される株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となります。

### (2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度171,700千円、149,200株、当第1四半期連結会計期間末171,700千円、149,200株であります。

(注) 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、株式数を記載しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高	－千円	－千円
差引額	500,000千円	500,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
現金及び預金勘定	8,273,518千円	9,002,256千円
預入期間が3ヵ月を超える 定期預金	△1,104千円	△429,034千円
現金及び現金同等物	8,272,414千円	8,573,221千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年4月28日 取締役会	普通株式	248,274	40	2022年3月31日	2022年6月9日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年4月28日 取締役会	普通株式	397,228	32	2023年3月31日	2023年6月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	D X & S I 事業	パッケージ 事業	医療 ビッグ データ 事業	グローバル 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高							
1. 外部顧客への売上高	3,253,221	864,897	319,470	681,687	5,119,276	—	5,119,276
2. セグメント間の内部売上 高又は振替高	19,620	67	—	6,173	25,860	△25,860	—
計	3,272,842	864,965	319,470	687,860	5,145,137	△25,860	5,119,276
セグメント利益	512,139	132,186	10,519	119,125	773,971	△512,590	261,380

(注) 1. 調整額のセグメント利益は、全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	D X & S I 事業	パッケージ 事業	医療 ビッグ データ 事業	グローバル 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高							
1. 外部顧客への売上高	3,457,736	960,279	415,418	806,776	5,640,211	—	5,640,211
2. セグメント間の内部売上 高又は振替高	27,997	407	—	18,511	46,917	△46,917	—
計	3,485,734	960,687	415,418	825,288	5,687,128	△46,917	5,640,211
セグメント利益	482,334	147,286	15,987	104,134	749,743	△627,725	122,018

(注) 1. 調整額のセグメント利益は、全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位：千円)

		報告セグメント				合計
		DX&S I 事業	パッケージ 事業	医療ビッグデ ータ事業	グローバル 事業	
業種	通信	803,894	—	—	—	803,894
	金融・保険	509,637	174,234	61	310	684,244
	サービス・流通	996,617	—	85,158	445,331	1,527,107
	教育	164,827	689,249	—	561	854,638
	製造	590,960	—	100	235,222	826,282
	医療	11	—	141,189	—	141,201
	官公庁・その他	187,272	1,413	92,961	260	281,908
顧客との契約から生じる収益		3,253,221	864,897	319,470	681,687	5,119,276
その他の収益		—	—	—	—	—
外部顧客への売上高		3,253,221	864,897	319,470	681,687	5,119,276

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位：千円)

		報告セグメント				合計
		DX&S I 事業	パッケージ 事業	医療ビッグデ ータ事業	グローバル 事業	
業種	通信	763,298	3,294	—	—	766,593
	金融・保険	402,370	142,305	—	650	545,326
	サービス・流通	1,277,333	4,359	51,096	576,375	1,909,163
	教育	178,780	808,804	—	162	987,747
	製造	728,979	—	69,074	228,894	1,026,947
	医療	11	—	245,845	173	246,029
	官公庁・その他	106,962	1,514	49,402	520	158,401
顧客との契約から生じる収益		3,457,736	960,279	415,418	806,776	5,640,211
その他の収益		—	—	—	—	—
外部顧客への売上高		3,457,736	960,279	415,418	806,776	5,640,211

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1 四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1 四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	18円26銭	5円05銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	223,888	61,902
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	223,888	61,902
普通株式の期中平均株式数(株)	12,264,476	12,264,114

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する当社株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第1 四半期連結累計期間149,200株、当第1 四半期連結累計期間149,200株)。
3. 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

## 2 【その他】

2023年4月28日開催の取締役会において、2023年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| (1) 配当金の総額……………        | 397,228千円 |
| (2) 1株当たりの金額……………      | 32円00銭    |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日… | 2023年6月9日 |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月10日

日本システム技術株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 千 崎 育 利

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 須 藤 英 哉

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本システム技術株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本システム技術株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。



#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

**【表紙】**

<b>【提出書類】</b>	確認書
<b>【根拠条文】</b>	金融商品取引法第24条の4の8第1項
<b>【提出先】</b>	近畿財務局長
<b>【提出日】</b>	2023年8月14日
<b>【会社名】</b>	日本システム技術株式会社
<b>【英訳名】</b>	Japan System Techniques Co., Ltd.
<b>【代表者の役職氏名】</b>	代表取締役社長 平林 武昭
<b>【最高財務責任者の役職氏名】</b>	該当事項はありません。
<b>【本店の所在の場所】</b>	大阪市北区中之島二丁目3番18号
<b>【縦覧に供する場所】</b>	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長平林武昭は、当社の第52期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。